

データで見る中小企業の動き 全国中小企業動向調査(中小企業編)の結果概要

2013年 4-6月期実績、7-9月期及び10-12月期見通し

『中小企業の景況は、 持ち直しの動きがみられる』

日本政策金融公庫 総合研究所は7月23日、「全国中小企業動向調査結果(2013年4-6月期実績、7-9月期以降見通し)」を発表した。



今回調査のポイント

- ① **業況判断DI** 4期ぶりに上昇し、来期以降も上昇する見通し。
- ② **売上DI** 4期ぶりに上昇し、来期以降も上昇する見通し。
- ③ **価格関連DI** 販売価格DI・仕入価格DIともに上昇し、来期以降も上昇する見通し。
- ④ **純益率DI** 4期ぶりに上昇し、来期以降も上昇する見通し。
- ⑤ **従業員DI** 前期から上昇し、8期連続でプラス水準となった。
- ⑥ **設備投資実施企業割合** 8期連続で上昇した。

DI (ディフュージョン・インデックス)

当調査のDIは、回答結果の分散程度を指数化したものです。質問に対し「プラス」「中立」「マイナス」の3つの選択肢を用意し、「プラス」の選択肢に回答した企業の割合から「マイナス」の選択肢に回答した企業の割合を差し引いた値で、基本的に「変化の方向」を表します。

DATA

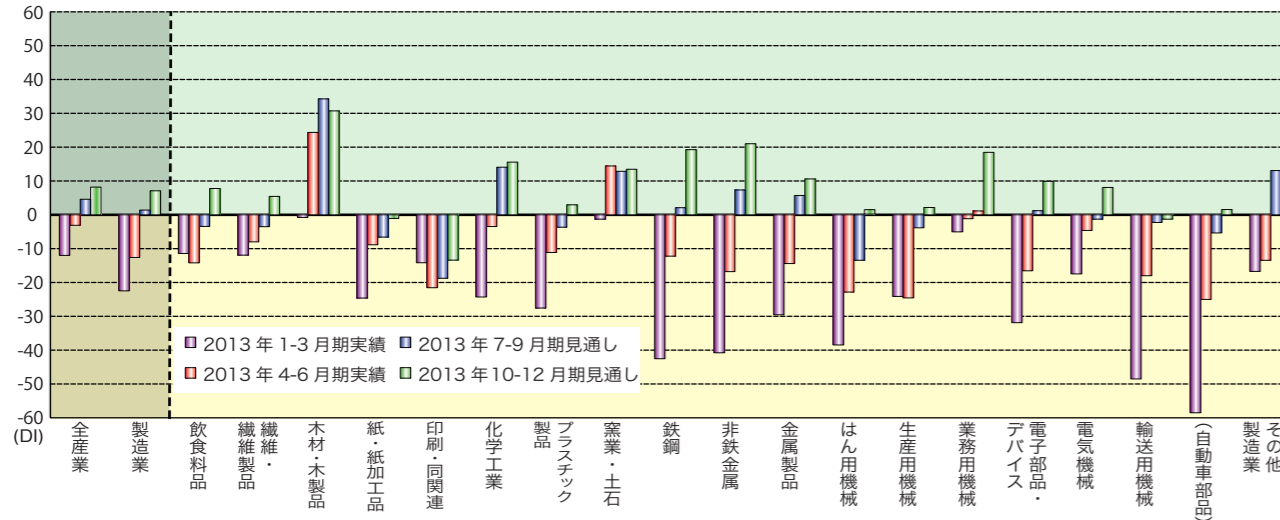
- 調査時点：2013年6月中・下旬
- 調査対象：日本公庫中小企業事業取引先13,450社
- 有効回答企業数：7,678社(回答率57.1%)

①-2 業種別業況判断

製造業：建設資材関連の業種を中心に上昇
非製造業：多くの業種で上昇

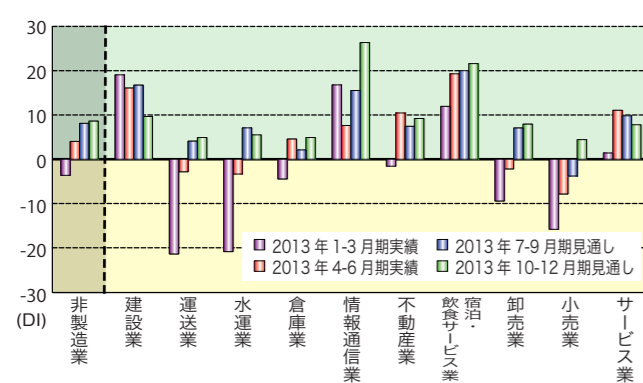
製造業 業種別業況判断DIの推移<季節調整値>

※前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合



非製造業 業種別業況判断DIの推移<季節調整値>

※前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合



●製造業

製造業は、多くの業種で上昇し、建設資材を扱う木材・木製品、窯業・土石がプラス水準となった一方、金属・機械関連の業種などはマイナス水準にとどまった。

●非製造業

非製造業は、多くの業種で上昇し、建設業、不動産業、宿泊・飲食サービス業などでプラス水準となった。

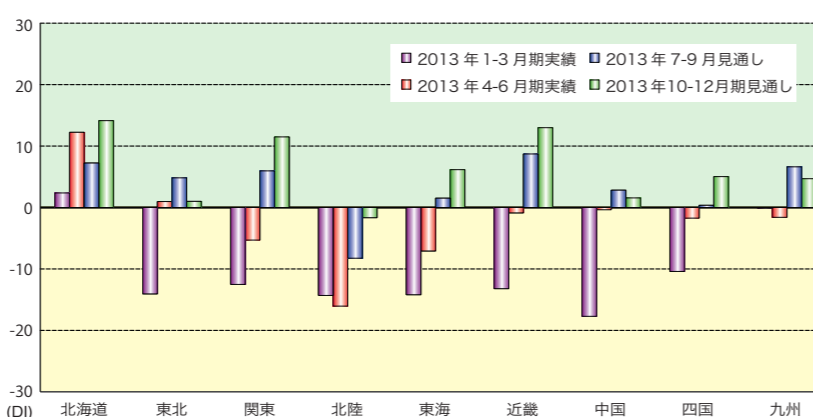
①-3 地域別業況判断

7地域で上昇

業況判断DIを地域別にみると、今期は北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、四国の7地域で上昇した。先行きについては、8地域でプラス水準となる見通しである。

地域別業況判断DIの推移<季節調整値>

※前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合



①-1 業況判断

4期ぶりに上昇

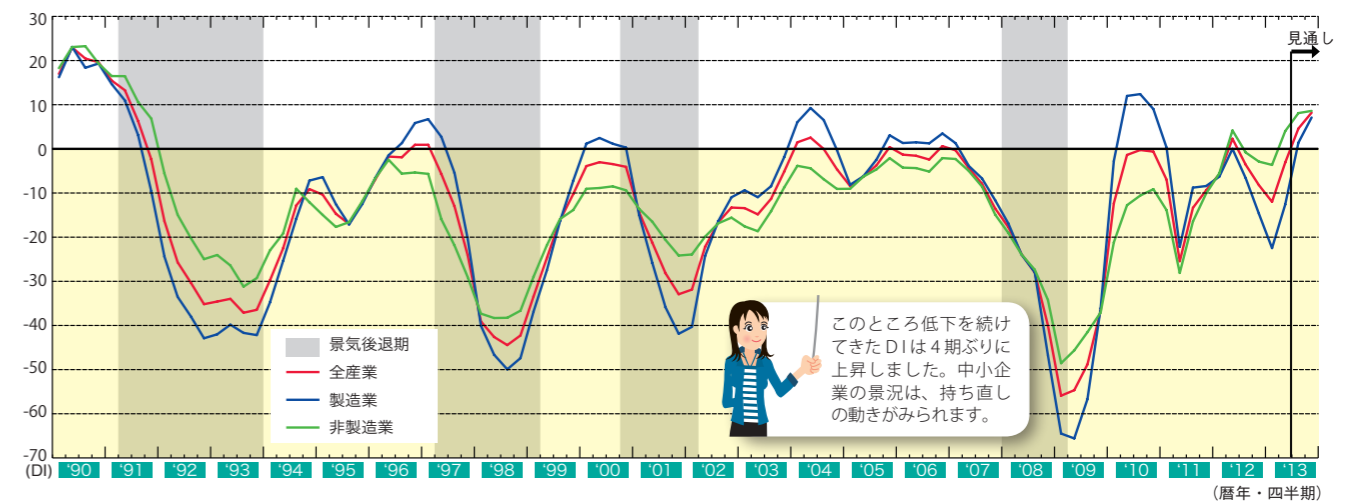
▲12.0 ▷ ▲3.1



- 現状 業況判断DI(前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)は▲3.1と、前期(2013年1-3月期)から8.9ポイント上昇した。
- 見通し 先行きについても上昇し、来期は4.6になる見通し。

業況判断DIの推移<季節調整値>

※前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合



④ 利益

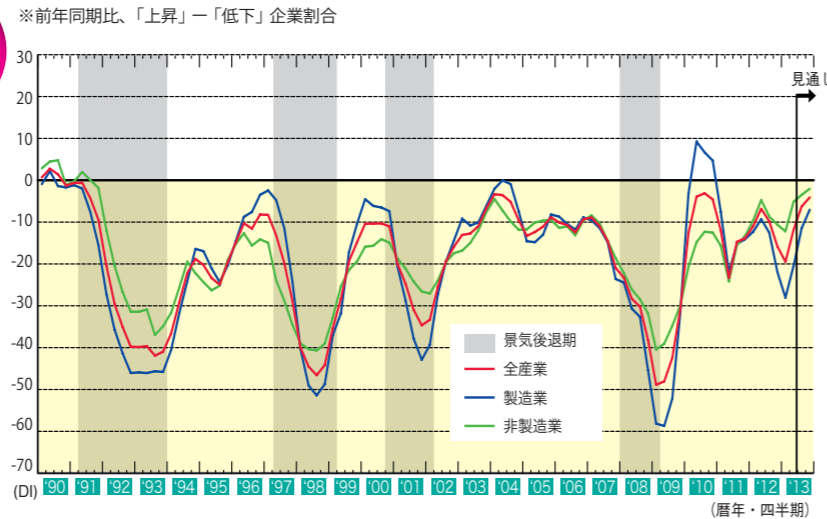
4期ぶりに上昇

▲19.5 ▷ ▲11.9



純益率DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は▲11.9と、前期から7.6ポイント上昇した。来期も上昇する見通しとなっている。

純益率DIの推移<季節調整値>



⑤ 雇用

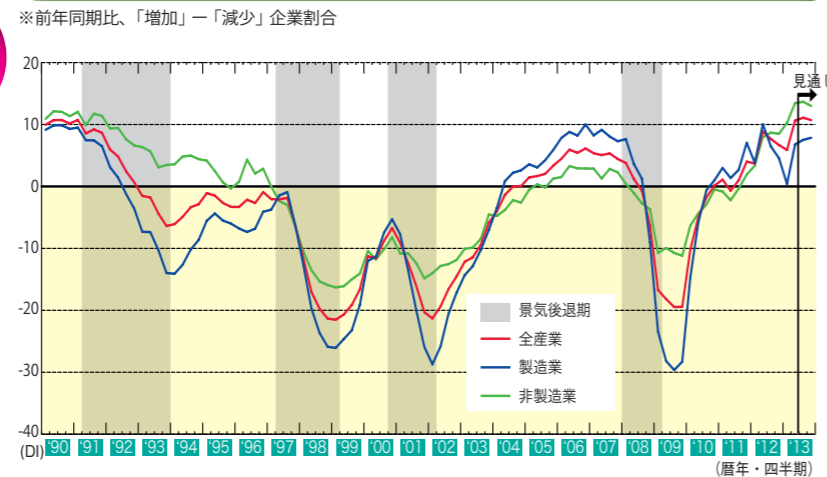
8期連続で
プラス水準

5.9 ▷ 10.6



従業員DI(前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)は10.6と、8期連続でプラス水準となった。

従業員DIの推移<季節調整値>



⑥ 設備投資実施企業割合

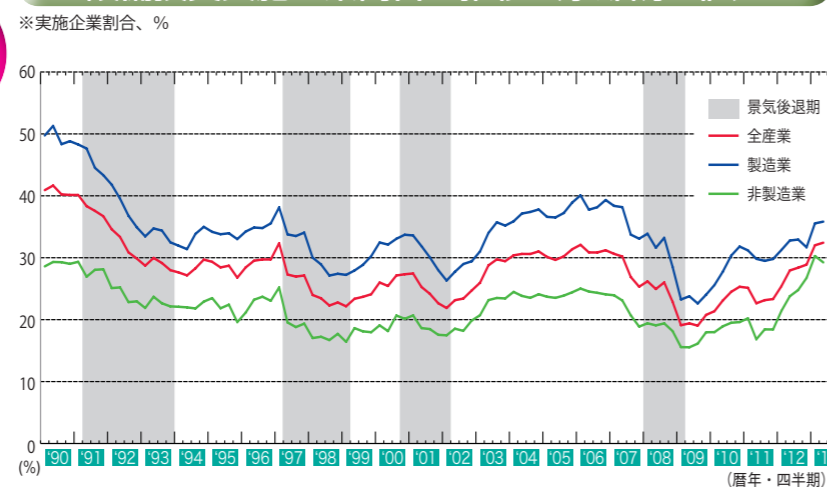
8期連続で上昇

32.0 ▷ 32.4



設備投資実施企業割合は8期連続で上昇し、32.4%となった。

設備投資実施企業割合の推移<季節調整値>



全国中小企業動向調査(中小企業編)について

当調査は、中小企業の景気動向等を把握するために、日本公庫 中小企業事業のお取引先のご協力を得て1959年以来3ヵ月ごとに実施している調査です。調査結果については、中小企業分野において我が国を代表するビジネスサーベイツとして、関係各位から高い評価を得ています。

② 売上

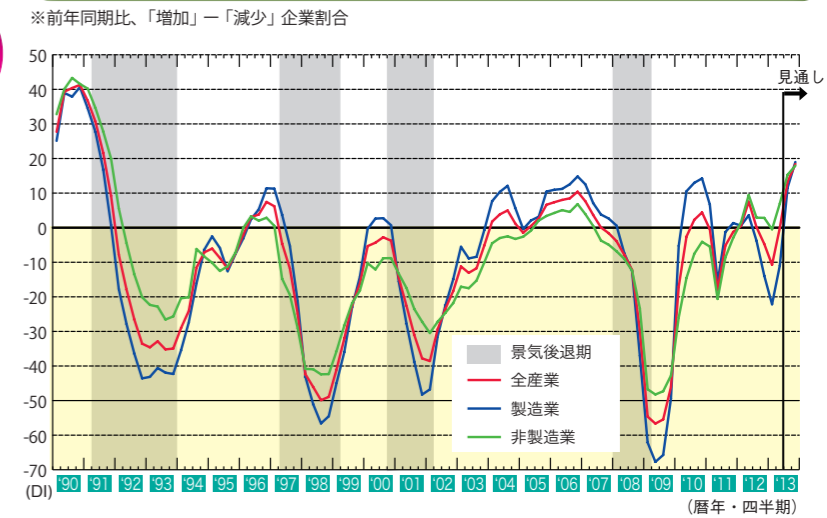
4期ぶりに上昇

▲10.7 ▷ ▲0.1



売上DI(前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)は▲0.1と、前期から10.6ポイント上昇した。来期(2013年4-6月期)は13.3ポイントとプラス水準に転じる見通しとなっている。

売上DIの推移<季節調整値>



③-1 販売価格

マイナス幅は縮小

▲11.5 ▷ ▲5.8



販売価格DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は、2期連続で上昇し、マイナス幅は縮小している。

③-2 仕入価格

2期連続で上昇

29.4 ▷ 44.1



仕入価格DI(前年同期比、「上昇」-「低下」企業割合)は、前期から14.7ポイント上昇した。先行きも上昇する見通しとなっている。

価格関連DIの推移<原数値>

